

安城市 実務講習会

「司書教諭としての仕事と役割・リテラチャーサークル」

安城市教育研究会図書館教育部では、7月29日（火）安城市教育センターにて、西尾市立寺津小学校の司書教諭 小林達也氏を講師としてお迎えし、図書館主任を対象に研修会を行った。

前半の講義では、読むための本、読む時間、そして子どもと本を結ぶ人がいれば、子どもはすすんで読書をするようになっていくとお話しいただいた。司書教諭として学校図書館や学級文庫の充実を図ることや、子どもと本を結ぶために各担任に読み聞かせの本を紹介することなどの重要性を改めて感じた。また、読書指導としては、ただ読むだけでなく、読書記録（書名、作家名、出版社、よかった度、あらすじ、心に残った文、コメント等）を書くことで、読む力をつけることにつながると教えていただいた。朝の読書活動では、読むだけという原則があるが、読む力を育てていくことを考えると、記録を書かせることも1つの方法であると感じた。その他にも、ビブリオバトル、おススメの本を紹介し合う会、リテラチャーサークルの方法等を教えていただいた。

後半は、4～5人で1組になり、リテラチャーサークルの実技演習を行った。リテラチャーサークルとは、一人一人が役割（思い出し屋、質問屋、段落屋、イラスト屋、ことば屋）をもって、グループで同じ本を読む。その後、それぞれの役割にそって感想などを話し合うという活動を行う。そして最後に、話し合ったことをまとめ、読書ボードに作品の紹介を書くという活動である。実際に体験してみて、参加者からは、「同じ本について話し合うという機会はあまりなかったので、新鮮だった。」「役割があることで、読むときの視点がもてる。また、それについて話し合うことで、読みが深まる。」「みんなで読んだり話し合ったりすることで、読書が苦手な子どもも楽しく参加できそう。」などの感想が得られた。学校に戻り、早速実践できそうなことをたくさん学ぶことができ、大変充実した研修会となった。



【リテラチャーサークルでの話し合い】

研修会は他の学校の図書館主任と直接情報交換できる数少ない場なので、大切にしていきたい。また、今回のように学校図書館の運営や授業、子どもとの関わり等で生かせる実技の研修をこれからも行っていけるとよいと思う。